

令和3年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立ひばりが丘中学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する（質問の意図を捉える）	90.2%	全国平均を8ポイント、都平均を6ポイント上回っていた。読解問題では自分の考えを書き、それを伝え合うことで書くこと・伝えることに慣れ、基礎的な書く・話す・読む力がついてきたと言える。また、言語についての知識理解においてはほぼ80、90%を超えていることから、知識・技能の定着できていると言える。今後も各項目の力が付くよう、習慣化できるようにしていく必要がある。	話すことの項目の中で、話し合いの話題や方向を捉えて考える力や質問の意図を捉える力が都の平均を少し下回り課題が残った。昨年はペイオフォーマリクスなども実践してみたがコロナ禍で話し合い活動が十分できていないことも起因し、話し合いの型の定着が不十分であった。今後は話し合いの全体像を捉えて、どのように発言すると話し合いが深まるかという視点で参加できるよう、質問の仕方や答え方などを学習させ経験させていきたい。
	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	60.7%		
	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うか書く	36.6%		
	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	33.0%		
算数・数学	「日照時間が6時間以上の日には、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	14.3%	習熟度別少数人数指導を通して、個に応じた指導を手厚くし、基礎的な知識・技能の定着を図ってきた。その成果が表れ、基礎的な問題の正答率が高く、定着が図られていることがわかる。基礎的な力をもとに、課題となっている思考力・判断力・表現力も高めていく。	記述式の平均正答率が全国よりも10.9%高くなったが、まだまだ課題を正確に把握し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。引き続き、答えだけでなく、考え方をまとめたり、説明したりする活動を通して、思考力・表現力・判断力の伸長を図っていく。
	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	33.9%		
	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	36.6%		
	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	41.1%		